



profile

昭和45年7月11日生まれ。ハンドメイドが得意。温泉4区在住。49歳。

周りの人たちに頼られる

存在になりたい

Spotlight

スポットライト



洞爺湖有珠火山マイスター

荒町 美紀さん

「地」震と地鳴りがとにかく怖かったです。夜はあまり眠れなかった記憶があります」

2000年有珠山噴火の体験を話すのは、洞爺湖有珠火山マイスターとして活動する荒町美紀さん。

荒町さんは留寿都村の出身で、地元の高校を卒業後に就職し22歳で結婚、旦那さんが洞爺湖町内に勤めていたことから、24歳のときに洞爺湖町へ引っ越してきました。

噴火の当時、洞爺湖温泉の桜ヶ丘団地に住んでいた荒町さんは、「自宅の裏が有珠山であるということも知らず、噴火するとも思わなかったし意識もしていなかった。周りの人たちに助けてもらって避難できた」と話します。

火山マイスターとしては、町内の中学2年生を対象とした避難所体験学習の講師や洞爺湖を訪れる修学旅行生にフィールドを案内するなどの活動を行っています。

火山マイスターとして、町内の中学2年生を対象とした避難所体験学習の講師や洞爺湖を訪れる修学旅行生にフィールドを案内するなどの活動を行っています。

火山マイスターになろうと思ったのは、もともと興味を持っていたことや周りからの勧めもあり、火山マイスター試験の受験を決意。2014年に7期生として合格しました。

自身の講話の最後には必ず「自分の命、周りの人の命を守る事が一番大事です」と伝えて締めくくると話し、「自分が経験したことを語り、それを聞いた子どもたちが次の世代に引き継いでいってほしいです」と講話する立場としての願いを語ります。

現在は、災害弱者を支援する防災介助士の資格取得に意欲を見せ、資格を取得することで自分の経験と言葉にさらに説得力を与え、自信を持って正しい情報を伝えていきたいと意欲を見せています。

最後に荒町さんは「前回の噴火のときは周りの人に助けてもらった。次の噴火のときには、自分が周りの人たちを助けたい、周りの人たちから頼られる存在になりたい」と意気込みを語ります。

東奔西走

新型コロナウイルス感染拡大の影響で町内でも、各イベントの中止や延期が増え、取材の機会が減少しています。まわりのわだいのページが減少する号が今後続くことになるかもしれませんがご了承ください。(C.K)

2000年の有珠山噴火から20年が経ち、次の噴火も近い将来に発生するかもしれません。噴火のほかにもいつ起こるか分からない災害に備えて普段からしっかり準備していきたいです。(M.O)

今月のワンショット



白銀の世界を踏み歩く
月浦をスノーシューであるこう